

馬 燕 (MA Yan)

学位：修士（学術）

略歴：名城大学大学院商学研究科修士課程修了

専門分野：中国語教育

研究課題：1. 日中通訳翻訳

2. 康有為教育思想

【著書】

- ・『中国語スタイルでいこう ― 上海編 ―』（共著、駿河台出版社、2020 年 4 月）
- ・『中日英対照 一挙三得 初級中国語』（共著、中国語教学研究会、2019 年 3 月）
- ・『実力中国語』（共著、ブイツーソリューション、2011 年 4 月）

【論文】

- ・「康有為の女子教育思想」（論説資料保存会編『中国関係論説資料』第 61 号第 1 分冊に再録、2020 年 12 月）（『愛知文教大学教育研究』第 10 号に収録、2020 年 2 月）
- ・「康有為の女子教育思想」（『愛知文教大学教育研究』第 10 号、2020 年 2 月）
- ・「康有為の留学教育思想」（『愛知文教大学比較文化研究』第 15 号、2018 年 11 月）
- ・「康有為と大隈重信」（中国古典学会学術雑誌『中国古典研究』第 59 号、2017 年 12 月）
- ・「康有為教育思想在现代教育中的传承」（共著、『愛知文教大学論叢』第 20 卷、2017 年 11 月）
- ・「康有為と宮崎滔天」（中国古典学会学術雑誌『中国古典研究』第 58 号、2016 年 12 月）
- ・「清国留学生の日本での活動に関する研究」（『愛知文教大学論叢』第 19 卷、2016 年 11 月）
- ・（研究ノート）「康有為と中国人日本留学 ― 史料調査を通じて―」（中国古典学会学術雑誌『中国古典研究』第 57 号、2015 年 12 月）
- ・「ビジネス中国語教育の有効的な指導法」（共著、『愛産大経営論叢』第 17 号、2014 年 12 月）

【翻訳】

- ・「康有為の女子教育思想」（『愛知文教大学論叢』第 23 卷、2021 年 2 月）
- ・「康有為与中国人留学日本 ― 史料調査纵观 ―」（『愛知文教大学論叢』第 22 卷、2019 年 11 月）
- ・「康有為の留学教育思想」（『愛知文教大学論叢』第 21 卷、2018 年 11 月）
- ・「現代教育における康有為教育思想の伝承」（共訳、『愛知文教大学教育研究』第 8 号、2018 年 3 月）
- ・竹内弘行著『後期康有為論 ― 亡命・辛亥・復辟・五四』（中国青島康有為研究会研究報告訳書、2014 年 2 月）
- ・中村聡著「アジア近代化の諸相 ― 中国近代の紀年問題 ―」（中国山東省教育庁・青島大学学術雑誌『東方論壇』、2011 年 6 月）

- ・中村聡著『地球説略』日本版本について」（中国山東省教育庁・青島大学学術雑誌『東方論壇』、2010年12月）
- ・中村聡著「日本横浜大同学校 ― その創立年月日について ―」（中国山東省教育庁・青島大学学術雑誌『東方論壇』、2008年10月）

【その他】

〈講演〉

- ・「外国人に伝わる日本語とコミュニケーション」（「第70回国際理解市民公開講座」、小牧市国際交流協会主催、於：小牧市公民館、2020年9月）
- ・「外国人からみたおかしい日本語」（小牧市民講座「おもしろい日本語」、小牧市教育委員会生涯学習課こまなびサロン主催、於：小牧市公民館、2016年9月）
- ・「ラーメンは和食です」（愛知文教大学公開講座、於：愛知文教大学国際交流会館、2015年6月）

〈高大連携活動〉

- ・日台学生交流会 通訳（愛知県立中川商業高等学校主催、於：愛知県立中川商業高等学校、2017年11月）
- ・「知っておくと便利な中国語」（出張授業、於：愛知県立岩倉総合高等学校、2017年5月）
- ・「中国語模擬授業」（出張授業：名古屋市立富田高等学校、2016年6月）
- ・日台学生交流会 通訳（愛知県立中川商業高等学校主催、於：愛知県立中川商業高等学校、2016年5月）
- ・「課題研究（中国語研究）」（出張授業：愛知県立愛知商業高等学校、2015年4月～2017年11月）
- ・「中国語力を就職に活かせる」（出張授業：名城大学附属高等学校、2015年2月）
- ・「手紙の書き方」（出張授業：愛知県立春日井商業高等学校、2015年2月）
- ・「中国語の基礎」（出張授業：愛知県立中川商業高等学校、2014年10月）

〈社会的な活動〉

- ・「外国語講座 入門・初級中国語」（小牧市国際交流協会主催、於：小牧市公民館、2025年6月～12月、全20回）
- ・令和6年度小牧市国際交流協会事務局国際スタッフ（中国語担当）採用面接官（於：小牧市国際交流協会事務局、2024年8月）
- ・「中国語講座2022」（公民館講座、於：小牧市公民館、2022.4～2023.11、全35回）
- ・「外国語講座 入門・初級中国語」（小牧市国際交流協会主催、於：小牧市公民館、2021年6月～2022年2月、全20回）
- ・令和2年度小牧市教育委員会事務局任用職員（語学相談員）採用試験面接官（於：小牧市役所、2020年1月）

- ・「外国語講座 入門・初級中国語」（小牧市国際交流協会主催、於：小牧市公民館、2019 年 5 月～12 月、全 20 回）
- ・「外国語講座 入門・初級中国語」（小牧市国際交流協会主催、於：小牧市公民館、2017 年 5 月～12 月、全 20 回）
- ・「中国語漢字クイズ」（小牧市民講座、於：愛知文教大学、2014 年 7 月）
- ・「中国語で中華料理を注文してみませんか？」（小牧市民講座、於：愛知文教大学、2014 年 7 月）

（研究資金獲得状況）

- ・2015～2019 年度科学研究費助成金基盤研究（C）「東アジア近代化の地域論的比較思想研究 ― 新出の康有為自筆資料に見る 21 世紀的課題 ―」（課題番号：15K02036、研究分担者）

令和 7（2025）年度ティーチングポートフォリオ

氏 名	馬 燕	職位／役職	教授
-----	-----	-------	----

1. 教育の理念

愛知文教大学の理念の中には、「グローバル化の波にあってだれでもが容易に社会的弱者になりうる現代社会において、その没落を防ぎ、一生を自立的に生き抜く強い心とそれを助ける社会力を備えた人材を育成することを通じ、社会の発展に寄与することを目的とします。」ということが謳われている。また、私が所属する人文学部の理念の中にも、「上記の使命・目的を達成するため、自他の文化に関する幅広くかつ深い理解にもとづく人文知の総合的な育成、および実践英語、実践中国語の修得と母語の運用能力向上による真のコミュニケーション力の養成を教育目的とします。」ということを宣言している。私は主に「中国語」の授業を担当しているので、この理念達成には「実践中国語の修得」ということが不可欠で、目の前の学生たちの中国語力を身につけさせることが急務と考える。私自身は、まず授業中に起こっている様々な問題を直視し、それらの問題に対してどのように対処すればよいのかを真剣に考え、学生たちにとって本当の有意義な中国語の授業を目指して、語学の力と真人の心で、今は不可能だと思えることを可能にする「逆転力教育」になるように引き続き尽力するつもりである。

2. 教育活動の内容

(1) 開講年度：2024 年度

- ・ 入門中国語Ⅰ・Ⅱ
- ・ 初級中国語Ⅰ・Ⅱ
- ・ 教養中国語 A・B
- ・ 観光中国語
- ・ ビジネス中国語 A・B
- ・ 通訳中国語 A・B
- ・ アカデミアゼミ B（3 年次編入）
- ・ アカデミアゼミ C・D（4 年次）
- ・ 日中翻訳文化論(大学院)

(2) 開講年度：2025 年度

- ・ 入門中国語
- ・ 初級中国語
- ・ 入門中国語発音会話
- ・ 初級中国語会話演習
- ・ 中国語視聴Ⅱ・Ⅲ
- ・ ホスピタリティ中国語 A・B
- ・ 通訳中国語 A・B
- ・ 高級漢語写作 A・B
- ・ アカデミアゼミ A・B（3 年次編入）
- ・ 日中翻訳文化論(大学院)

3. 教育の方法

(1) 基礎中国語

入門中国語・初級中国語・入門中国語発音会話・初級中国語会話演習・教養中国語の授業では、基本例の単語の「置換作業」、平叙文から疑問文へ、単文から重文へ、能動態から受動態などの「転換作業」、そして形容詞や副詞などを追加していく「拡充作業」を含んだパターンプラクティス教授法を用いて、自然な会話で構成された発話練習をしつつ、聴解力・発話能力および基礎的な文法を身に付けていく。また、言葉の勉強を通じて中国社会の現状や中国の人びとのものの見方・考え方に親しむ。

(2) 応用中国語

- ホスピタリティ中国語 A（旧：観光中国語）の授業では、教科書、音声 CD などを使用して観光に関連する語彙力、聴解力、読解力、文章力を伸ばすだけでなく、観光業で想定される場面を取り上げ、要領よく相手に説明し、理解してもらえるよう、実践的な会話練習も実施する。
- ホスピタリティ中国語 B（旧：医療中国語）の授業では、教科書、音声 CD などを使用して医療に関連する語彙力、聴解力、読解力、文章力、会話力を伸ばし、医療実務に役立つ総合的な中国語力の養成を図る。さらに、ロールプレイ方式での会話演習を行うことにより、表現力をアップさせ、実際の現場で中国語を使うことのできる能力の習得を目指す。
- 中国語視聴の授業では、中国の様子を紹介する映像を観ながら、会話文と読解文を学習させ、聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力と会話力を鍛えることを目指す。同時に、中国文化や中国事情への理解を深める。
- ビジネス中国語の授業では、実際のビジネス場面を想定して、それぞれの場面での会話を学び、関連用語を学習した上で、グループでの応用演習を実施する。
- 通訳中国語の授業では、新たにおこなったインタビューを含め、放送、会議、シンポジウム、舞台あいさつ、診療、法廷などさまざまな形態で、政治、経済、文化、環境保護、医療、司法、中国語学習などさまざまな分野の中国語と日本語音声を収録した CD を使って、基礎的な練習から、逐次通訳、放送通訳、さらに同時通訳まで、実践的かつシステムティックに指導する。
- 高級漢語写作の授業では、文法ポイントを復習しながら、「単語一文一段落一文章」という積み重ね方式で系統的にトレーニングして、受講者が着実に作文能力を身に付けるよう導き、HSK5 級・6 級や今後の実践的な応用のために基礎固めをする。

(3) アカデミアゼミ

- ①研究題材の選定に必要な基礎知識と研究方法については講義・課題を通じて習得させる。
- ②ゼミ内の討論を実施する。考えをぶつけ合いながら、学び合わせる。

(4) 日中翻訳文化論(大学院)

日本語とそれに対応する中国語、或いは中国語とそれに対応する日本語の関係から両表現の異同などについて論じ、項目ごとに例文をあげて丁寧に解説することにより、より応用的な日中翻訳文化の論説の構成を図る。

4. 教育活動の成果・評価と改善方策

2024 年度に実施された授業アンケートは以下の科目である。

(1) 基礎中国語

＜成果・評価＞

中国語が難しいというイメージを持っている学生が多かったが、私が担当する基礎中国語講義を受けた後の授業調査アンケートの学生からの自由記述によるコメントでは、「楽しく学びました。」「中国語の発音が難しかったり、聞き取れなかったりした時はゆっくり発音してくださったりいつも気遣って下さりました！ありがとうございました！」「他の授業で学んだことを生かして、新たに学ぶことができてよかったです。」「例文を作るよう促してくれるので習ったことがその場で身につく。」「ただテキスト通りに授業をするだけではなく、HSK やこれからの授業でも使えるような授業を行ってくれる。」などポジティブに評価する意見があり、中国語に対する学習意欲を引出せた。

＜改善方策＞

- ①日本語での文法説明のほか、簡単なフレーズを用いて置き換え練習により多くの時間を割いていき、効率よく中国語運用能力の修得を目指したい。
- ②これからも授業内容に合わせて、身近な中国文化や現代中国社会事情などについての紹介を加えることにより、もっと興味を持たせたい。

(2) 応用中国語

■観光中国語

＜成果・評価＞

観光業で想定される場面取り上げ、要領よく相手に説明し、理解してもらえるよう、授業の中でグループでの実践的な会話応用演習などアクティブラーニングを導入した。講義では、ほとんどの学生が熱心に取り組んでいたのも、良い結果が得られたと思う。

＜改善方策＞

- ①集計結果を見ると、予習・復習の時間が少ない。事前・事後学習も充実できるよう宿題を与え、地域通訳案内士登録者数を1名でも多く増やせるよう努めたいと考える。
- ②ホスピタリティ業界で活躍する卒業生による経験談や実践的なフィールドワークを通じて、「おもてなし」の精神を基盤としたホスピタリティを理解させ、学習欲を引き出す。

■ビジネス中国語

＜成果・評価＞

学生（特に授業に追いつけない学生）の学習意欲を喚起するために、授業の中でグループでの会話応用演習などアクティブラーニングを導入した。講義では、ほとんどの学生が熱心に取り組んでいたが、グループ演習では討議が活発なグループもあったが、議論がなかなか盛り上がらないグループもあった。本講義を受けた後の授業調査アンケートの学生からの自由記述によるコメントでは、「分かりやすかった」「だいすき！」などポジティブに評価する意見があるだけでなく、「5」評価項目も非常に多いので、良い結果が得られたと思う。

＜改善方策＞

- ①学生にグループ討議への積極的な参加を促すために、教員によるグループ別演習の介入がもっと必要と考える。
- ②学生と教員間のコミュニケーションが図れるよう授業内容の改善も取り組んでいきたい。

■通訳中国語

＜成果・評価＞

学生の主体的な学びに基づく学修時間の確保を目指し、反転授業を何回かを実施した。そのため、復習・予習する受講者だけでなく、授業後に準備のため質問しに来る受講者も増えてきた。授業

調査アンケートの学生からの自由記述によるコメントでは、「授業を通じて、訳す能力が上がったと思います。」「いい授業」「分かりやすく教えて下さったのでわかった」などポジティブに評価する意見があった。また、2023 年度の受講生の中に 1 名が法廷通訳、2024 年度の受講生の中に 1 名が医療通訳（2 級）の登録ができた。今後、登録者が一人でも多くなるよう努めたいと考える。

〈改善方策〉

学修習慣の定着と強化による下位層の底上げと理解度改善による上位層も含めた学修意欲向上、その結果としてすべての学生の満足度改善を期待して、引き続き反転授業を何回かを実施する。

(3) アカデミアゼミ

〈成果・評価〉

主体的な資料調査や討論を通して考察することができた。本講義を受けた後の授業調査アンケートの学生からの自由記述によるコメントでは、「この授業の学んだことは将来に役にたつと思います。」などポジティブに評価する意見があり、良い結果が得られたと思う。

〈改善方策〉

- ①課題について、多角的に理解し、かつ独自の探究ができるように指導していく。
- ②自ら設定したテーマについて主体的に研究・調査を進め、その成果を説得力をもって発信することのできる能力の修得を期待する。

5. 今後の目標

本学の教育目的を実現するために、まずは、学生が興味・関心を持つことのできる授業、そして、実践を重視し、即戦力となれる中国語コミュニケーション能力の獲得のできるような授業を心がけるつもりである。